やまなし
医療最前線
新3OR始動
県立中央病院から
〈285〉

眼科は全て専用室に移行
白内障手術 日帰り拡充

山梨県立中央病院内に今月新設される手術室（OR）。利用する診療科の一つである眼科は、白内障の日帰り手術の拡充が見込まれている。日帰り手術の運用はおおむね半年後を想定していて、眼科統括部長の阿部圭哲医師は「患者の要望に応じて柔軟な対応が可能になる」と展望を口にする。

阿部圭哲
眼科統括部長

2階に設ける新手術室2室のうち、1室は眼科専用となる。眼科の手術・処置は3階にあるメイン手術室（中央手術室）からこの専用手術室に全て移行される。

移行に伴って期待されるのが白内障の日帰り手術の拡充だ。阿部医師によると、白内障は同院が行う眼科関連の手術のおよそ8割を占める。進行した難症例のほか、全身状態や高齢によって通院ができないため、地域のクリニックから紹介されて受診するケースが多い。同院は原則として入院が必要で、通常は片目で2泊、両目で4泊することになっている。

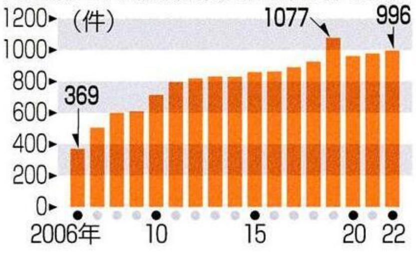
新設される手術室には、術前の待合室に加え、術後の一定時間、患者が待機して様子を確認できる「リカバリースペース」を併設し、日帰り手術に対応できるようにした。「入院、日帰りいずれにも対応でき、患者の選択肢が増える」と阿部医師。「段階を踏んで体制を整え、将来的には白内障手術の半数ほどは日帰りできるようにしていきたい」と話す。

同院の眼科手術は増加傾向が続く。コロナ禍で一時減少に転じたが、2022年は996件と過去10年で2番目に多く、全診療科の中ではトップとなっている。

専用手術室が稼働すれば他の診療科と併用している現状に比べて手術日も確保しやすくなり、「5～6カ月程度」（阿部医師）となっている手術待ち期間の短縮に結びつく可能性がある。加齢黄斑変性症といった目の病気の治療である「抗VEGF治療」（眼球内への薬の注射）も実施日が週1回と決められているが、今後はそれぞれの患者に応じたきめ細かい対応につながると期待されている。

＝次回は16日に掲載します

山梨県立中央病院 眼科手術件数の推移



掲載日：2024年01月09日／ぶんくら／紙面頁009
紙面・記事・写真・イラスト等の無断掲載・転用はお断りします。Copyright 山梨日日新聞社